

常設展示(第12回)

EX—LIBRIS

— 蔵書票の世界（日本篇） —

平成3年5月23日（木）～6月25日（火）

エクスリブリスとは、一般的には蔵書の見返しに所蔵者名を記した美しい絵・図版の紙片を貼り、その所有を示したものです。日本語では「蔵書票」あるいは、「書票」と呼ばれます。現在では、小さな芸術品としても親しまれ、コレクター同士の交換会も開かれています。今回は、当館所蔵書の中から、日本の蔵書票についての研究書や作品集をご紹介します。

展示資料リスト

1. 蔵書票の話

斎藤昌三著

東京 文芸市場社刊 1929

<553-53>

日本における最初の蔵書票の研究書。改訂版は翌1930年。内容は、蔵書票概説、起源、意義に及ぶ。現物も添付

2. 蔵書票と書籍の装幀

斎藤少雨叟（昌三）著

小樽市 北海道豆本の会 1958

<024.5-Sa299z>

右頁（図版 [No.2]）の醍醐寺光台院蔵票は現存する日本最古の蔵書票（1470年頃）。左頁 [No.3] は夏目漱石著「漾虚集」にカットとして挿入された橋口五葉作書票。日本において EX LIBRIS の文字が入った最初のものといわれている

3. 日本の古蔵票

斎藤昌三著

東京 書物展望社 1946 48p

<024.5-Sa299n>

